

そして、手術をしてもらった渡部医師のもとに、書生として住みこみ、医学への道の第一歩をふみ出したのです。

夜、十二時過ぎ、清作は、医学の本を読んでいた。そこに、たずねてこられた人が、血脇守之助先生です。先生は東京の齒科の医師で、若松へ出張治療にきておられました。

「いつまでも、よく勉強しているね。」と、声をかけた血脇先生は、おどろきました。清作の読んでいた本は、フランス語で書かれている医学の本なのです。

